



## 「私の“初登山”奮戦記」

白井 賢一

勤めていた会社での大先輩！であった高橋文さんからお誘いいただき、ちゃんとした“支度”と“心の準備”をして登るような私の実質“人生初登山”は、2013年1月のクマさん会での『鍋割山』でありました。

初心者として、行く前にまず心配なのは“道具”です。さっそく文さんをはじめ、まだお会いしたことがないクマさん会の先輩方からメールなどでアドバイスいただきました。“ド”が付く初心者としては、“道具”と思っていたものを、雑誌やネット上の情報として“装備”などと呼ばれてしまいますと、さらに緊張感と期待感が増してくるところでありました。

先輩方からは、今から思えばですが、“鍋割山＝初級”（山行予定表でも「初級」と明示されていました）という図式から、そんなにシビアに装備を云々するレベルではないというところであったと考えられますところ、「シューズとザックだけはきちんとしたものを用意してください。購入するときに、お店の人によく話を聞いてくださいね。」とのお言葉をいただき、ウェアに関しては「1月真冬だから、“防寒対策”だけはしっかりね」とだけアドバイスをいただきました。

そんなわけで、“カタチから入る”とはよく言いますが、このあたりから道具選びがたいへん楽しくなっていく段階で、ネットで情報を仕入れ、何軒ものショップに足を運び店員さんのお勧めにも従い、それまで山に縁のなかった者からは“ちょっと高いな！”と思えるものの、自分なりに納得の【ザック】と【シューズ】を買い揃えて準備万端、デビュー戦の日をワクワクと心待ちにしました。

そしていよいよデビュー当日、初対面の先輩方と顔合わせをした段階では何も気づいておりませんでした...そして登山道に入り...と言っても、鍋割山の場合、序盤戦の1時間強はノンビリ散策ムードの林間コースでまだ何も気づきませんでした...あやしくなってきたのがいよいよ“登り”を感じる、そうですあの“ペットボトル”（山頂の小屋へ水を運ぶボランティア）のポイントあたりから先でありました。

「白井さん、一番若いんだから2本や3本平気だろ！」という（たぶん）文さんの無責任なお言葉に、さすがに2本3本はムリと思って、せめて1本くらいは...と“過信”してしまったのが運の尽き...その約2時間後、“水2リットル”の本来の重みというものを人生で初めてヒシヒシと感ずることになるのであります。

そうなんです。このあたりで初めて気づいたことがありました。“冬山”に来たというのに妙に“暑い”...なんだかかなり汗をかいているなあ？素人の理解の仕方として“冬山”、“遭難”、“凍死”等々のワードが頭に浮かびますと、「防寒対策だけはしっ



かりね」とベテランに言われれば、自身の持っていたアイテムの中では最高レベルの“防寒”で武装しての参戦となっていました。定番「ユニクロのヒートテック」、「同じくヒートテックのタートル」、さらにこれまで着たことのない「極厚生地のスリースジャケット」をミドルに、そして仕上げは（やわな「ウルトラライト」などではない）これまた「極厚表&裏地の重〜いダウンコート」という“完全武装”と言えるいでたち、“これなら遭難しても大丈夫！”と思っていた万全の準備が“遭難同然？”の事態を生むこととなりました。

気がつけばまわりのベテランの皆様は、元々薄手のジャケットであった上に、それを脱いでは丸めるなり、ザックにしばりつけるなり...いつの間にか軽やかに“軽装”に変身しているではありませんか！？でもでも自分の場合、ダウンコートもスリースジャケットも簡単には小さくはくれない代物で、そのまま“完全武装”を維持せざるを得ない展開となり、人一倍汗かきの私のウェア内は、“冬山登山”のはずが、もはや“灼熱の夏登山”に変貌しておりました。

そのような緊急事態の中、文さんのリードのおかげもあり、なんとかあと少しで頂上というところまで脚を動かしていきましたが、完全防寒ウェアの内部温度はピークで、また、そのウェア自体が、まさかこれがふだん着ているコートとスリースか？と思えるくらい汗をたっぷり吸って“重量物”と化し、さらにはズボンも必要以上に極厚なジーンズで同じく汗で“満水”、うっかりザックに入れてしまった水2リットルの重みが追い打ちをかけ、長年バレーボールで鍛えてきたはずの下半身がもろくも崩れ去りました。もう太ももはパンパン破裂寸前、脚全体がこれまで経験したことのない痙攣症状で、“もはやコレマデ”となりました。

それでもなんとか皆様の励ましのお声と、完全マイペースの休憩の連続を経て、時間をかけて頂上へと、はいつくばってかろうじて到着いたしました。あのような危機に瀕しますと、「頂上山小屋に美味しい鍋焼きうどんがある」なんてお話がまったく信じられなくなっていました。それが本当にあったので、あの鍋焼きうどんの味、生涯口にしたものの中でまさに最高と言える美味な逸品と感じ、しみじみと味わったことを鮮明に覚えています。

ついでに申し上げておきますと...登頂・食事の後、下りは下りで脚全体の痙攣との闘いの連続で、これまた瀕死の状態でなんとか下界にたどり着いたわけですが、帰りに連れて行っていただいた鶴巻温泉『弘法の里湯』は、ふだんでも温泉では“生きかえる〜！”などと思わずつぶやくものであるところ、本当に文字どおりの“生きかえる瞬間”を経験するという一生忘れられない一日となりました。

以上がざっと私の初登山奮戦記であります。もしも今後、初心者の方に私が一言アドバイスをするような場面があったとしましたら、【ウェア】のことだけはしっかり伝えたいと思います。



「登山はスポーツですよ。歩けば、もっと激しそうな種目と同様に、真冬でもしっかりと汗をかきます。ジャケットは脱いたら丸められる薄手のものにして、“中”で重ね着するようにしましょうね！」

以上、クマさん会での初回参加での出来事でありましたが、まあ、装備云々のことはさておいて、その後もベテランの皆様の桁違いの体力・脚力・スタミナには終始驚愕の想いでありまして、なんとかこれから（まずは現在の脚の怪我を完治させた上で）少しでもその域に近づけるよう、自身の心身を鍛えなおしてまいりたいと思っております。

今後ともよろしく願いいたします。